

佐久市保健福祉審議会児童福祉部会 会議録

日時：平成 29 年 8 月 22 日（火）

時間：14：00～

会場：佐久市役所 5 階 501 会議室

出席者

児童福祉部会委員

池田 喜忠、小林 政徳、神津 五人、宮沢 秀一、佐藤 洋一、両澤 正子
春日 利夫、松川 たか子、佐藤 一夫、外川 裕子、荻原 さき子、武田 香
木内 光輝

欠席者

藤巻 崇

事務局

工藤 亨良（福祉部長）、角谷 秀敏（子育て支援課長）、小根山 史（保育係長）、佐藤 大樹（保育係）

1 開会

- ・子育て支援課長よりあいさつ
- ・佐藤部会長よりあいさつ

2 協議事項

(1) 「保育所のあり方について」

（事務局：小根山）

「保育所のあり方」（案）についてのパブリックコメントの内容及び、その意見に基づいた修正点を説明

質疑、意見、要望等

（委員）

資料 1 の No.19 について、保育料の公私立による差はないとの事だが、月平均保育料調定額は公立が 16,969 円、私立が 18,193 円となっているがこの差は何か。

(事務局)

まず、保育料は公私立関係なく、保護者の収入によって決定される。収入の多い方が私立の方が多という事。

(事務局)

月平均保育料調定額は、例えば公立保育園であれば、公立保育園全体の保育料をその全保護者数で割りかえすことによって算出している。公私立それぞれで算出された結果が先程の数字であり、あくまで保育料は親の収入によって決定し、公私立で保育料に差はない。

(委員)

パブリックコメントが5名の方から27件あったとの事だが、前回等と比較するとどうであったのか。

(事務局)

前回はこのような制度が無く、今回が初めてである。

(委員)

今後、パブリックコメントの募集の方法についても検討する必要があるのではないか。

(委員)

公立保育園の老朽化している現状で、公設民営化の方向性があると捉えている。また、未満児保育の需要が増加している中で、今後、未満児保育、病児保育についてどうお考えか。

(事務局)

未満児保育の需要は多い現状であり、年度途中の入所が出来ない状況となっている。ただ、将来的には少子化で未満児の人口も減少が予想される。その中で保育園ができる未満児保育・病児保育を実施していく。

(委員)

子どもを預けられない母親が多い。行政がしっかりケアをしてほしい。

(事務局)

小規模保育事業所、企業内保育事業所に対する補助金の出る国の制度があり、それを活用していきたい。

(委員)

病児・病後児保育とはどのような事業か。

(事務局)

病児保育は、かぜ・感染症等の病気の子どもを、預けられるという事業である。また、

病後児保育は病気の回復期にある子どもを預けられるという事業である。病児保育は浅間病院で、病後児保育は岸野保育園で行っている。

(委員)

障害児の未満児についてどのような保育がなされているか。

(事務局)

障害加配の保育士をおいている。1対1もしくは2対1で障害児を保育している。資料にあるとおり、障害加配の保育士はその需要が増加しているため12人前年より増加し65人となっている。

(委員)

パブリックコメントに対しての市の考え方の部分に「参考にする」、「検討する」が目立つ。コメントを寄せた方は肩透かしをされたように思ってしまうのではないか。

(事務局)

今回「保育所あり方(案)」につきまして、5名の方から27件のパブリックコメントを頂いた。直接関わってくる内容の意見、保育行政に期待する意見等があり、あり方の中に反映できる範囲を超えている意見もあった。その中であり方に反映できる意見は、参考にさせて頂き修正をした。また、古い園についてはあり方を基本とし、随時改築を検討していかなければならないと考えている。今後ともご意見等頂ければありがたい。

3 その他

(事務局)

30日に審議会へ報告する。答申について、パブリックコメントの内容もホームページ等で公表していく。

4 閉会